

## エジプト 知的財産権侵害にDNA検査で対抗

EUROFRUIT 2023年9月15日

**エジプト当局は、ブドウ品種の違法栽培問題は発生源で解決するのが最善と考え、最新のDNA分析装置に投資して無作為にサンプルを採取**

エジプトの関係機関は、「繰り返される違反」に対抗して、保護されたブドウ品種の違法な出荷を産地で防ぐため、DNAを用いると発表した。

植物防疫中央管理局のエルサイド・アッバス局長によると、先月、イタリアの税関当局は、グラパ(Grapa)社が権利を有するアーリースイート品種の違法に栽培されたブドウのコンテナ2つを差し止めた。知的に保護された品種を含むエジプトからの荷が当局によって止められたのは、これがおそらく4回目であった。

品種の所有者が権利侵害を疑う場合、DNAサンプルは検査のためヨーロッパの公的研究機関に送られる。

アッバス局長は声明で、「権利侵害の場合、貨物は破棄される。これは、輸出業者、梱包業者にとって大きな損失であるだけでなく、それらの業者と特許取得済みの品種を違法に栽培している生産者間の問題を意味する」と述べた。(以下、特筆した場合を除き、「」は同局長の声明での発言)

伝えられるところによると、エジプトは、特に同国が植物の新品種の保護に関する国際条約(UPOV条約)に参加して以来、そのような行為を根源的に停止するための抜本的な措置を講じている。

エジプトの農業大臣は、農場と梱包施設が当局によって承認され、輸出するための認証コードを取得することを義務付ける規則(2021年省令第387号)を発出した。

エジプトの植物防疫中央管理局も、生食用ブドウの輸出手順を規制する規則を発出した。

「保護された品種をライセンスなしに扱った生産者や梱包施設は、認証コードの有効性を失い、したがって輸出が禁止されるリスクがある。エジプトの裁判所は昨年、エジプト北部の農場で地方当局によって伐根された9千本のブドウの木の破壊を命じた。」

エジプト植物防疫当局の責任者であるアフメド・エル・アッターール博士は、「エジプトは権利侵害と戦うために非常に厳重な措置を講じている」と述べた。

当局は、新しく建設した施設に最新のDNA分析装置を設置し、違法なブドウ品種が疑われる農場や梱包施設をランダムにチェックしている。

アッバス局長の話 「予防措置として残留農薬をチェックするのと同様に、DNAの侵害もチェックする。海外で止められ、お金を失い、業界全体の評判を台無しにするよりも、エジプト国内で違反者を止める方が良い。これはまた、一部の小さな種苗業者が植物材料を違法に入手して生産者に販売し、生産者が後で品種の育成者から訴えられたり、違法な果実を販売する商業上の問題を起こしたりするリスクを防ぐものである。」

「エジプトの法律はイノベーションを奨励し、研究への外国投資を引き付け、品種育成者を保護する。これらのステップは、多くの品種育成者がエジプトへの投資を増やし、品質と生産性を向上させ、最終的には我が国の輸出部門と小規模生産者の助けとなる新しい品種を導入することを推進してきた。ライセンスを有する生産者らは、市場を台無しにする違法で安価な果実から彼らを保護するこれらの取組みを歓迎している。」

執筆者: トム・ジョイス